

ボルネオ島の環境問題に対する社会心理学的アプローチ

3年1組14番 境井 聖馬（共同研究者 中尾 想南太）

1. はじめに

私は高校1年生のときに学んだボルネオ島の環境問題について自分にできることをしたいと考えた。このように考えたきっかけは、ボルネオ島と私たちには密接な関係があると知ったからだ。私はボルネオ島で学んだ経験を活かし、自校の生徒の環境に対する意識を変えることで、間接的にボルネオ島に貢献できると考え、活動を行った。私たちは過去に学んだボルネオ島の環境問題について意識し、解決に向けた行動を取れているのであろうか。また、社会心理学である一貫性の法則を用いることで対象者の問題に対する意識をより高め、解決に向けた行動に結びつけることができるのであろうか。

2. 序論

・目的(問い)

国際高校生は、過去に学んだボルネオ島の環境問題について意識し、解決に向けた行動を取れているのであろうか。

・資料と方法

本校の1、2年生を対象に各階の手洗い場およびトイレに、RSPO認証のハンドソープとそうでないハンドソープを設置した。2021年11月1日から長期休暇(冬休み)までの土日を除く放課後に、電子天秤を用いハンドソープの使用量を調べた。私たちの中には無意識に過去の行動を一貫しようとする一貫性の法則という心理法則がある。私たちはまず1年生、2年生の各フロアの手洗い場とトイレに、ボルネオの環境問題を説明しているポスターやポップを目につくような場所に貼り、それらを見た事により過去の学びを思い出させ、RSPO認証ハンドソープを使う行動に結びかせるようにはたらきかけた。

3. 本論

・結果と分析

1. RSPOハンドソープ使用量の推移

ボルネオ島の環境問題について学んだ事のある国際高校生を対象にし、実験を行った。まず初めに、1週目2週目については何も示さず、RSPO認証のハンドソープとそうでないハンドソープを並べて置いた。

(図1)

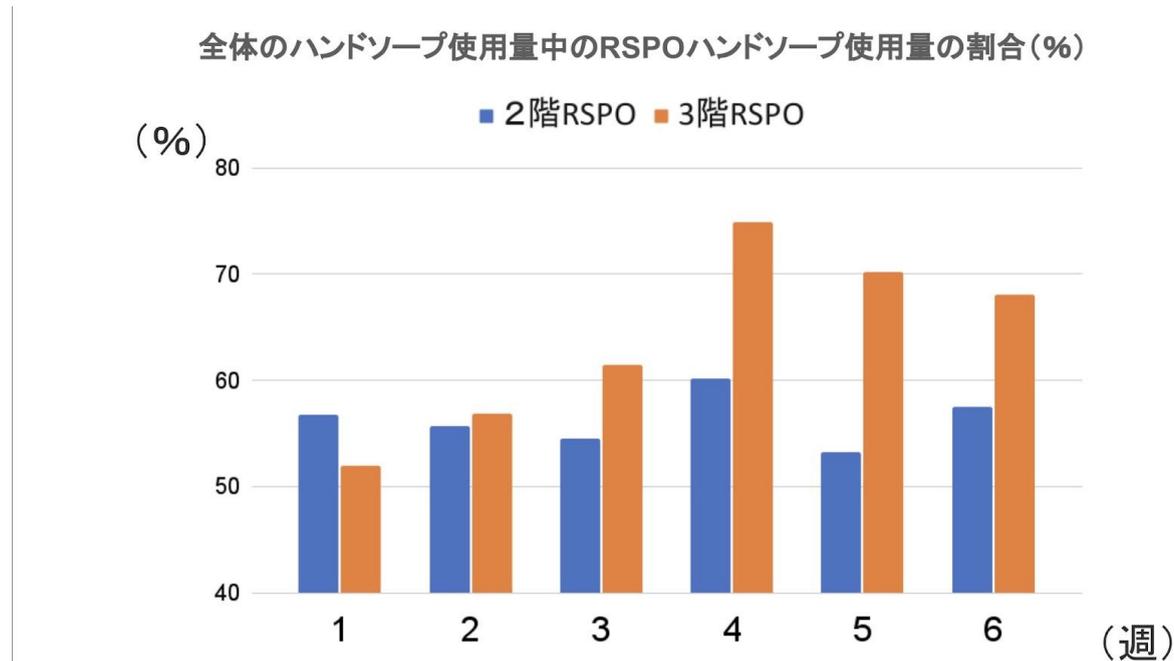


図1は、全ての場所に設置したハンドソープの全体使用中のRSPOハンドソープの使用割合のグラフである。青色のグラフが1年生、オレンジ色のグラフが2年生である。その結果、1週目では、1年生のRSPOハンドソープの使用量が55パーセントを占めていた。また、1、2年生共に1週目では、RSPO認証のハンドソープの使用量の方が多かった。ここで私たちが考えたことは、2つのハンドソープを見た人たちが過去に勉強したという学びを活かそうとして、RSPO認証ハンドソープを使用したのではないだろうかと考えた。また、これは過去の自分の行動と一貫したものであるので、一貫性の法則が働いていると考えた。

2. 一貫性の法則の適用

3週目と4週目にはボルネオの環境問題とRSPO認証を説明するポップそしてポスターを掲示した。その結果、2年生のRSPO認証ハンドソープ使用量の割合が、4週目に75パーセントまで上がった。この結果から、掲示しているポスターやポップを見たことにより過去の学習を振り返ることができ、一貫性の法則がはたらいたと考えた。興味深いことに、2年生の2週目、3週目、4週目のRSPO使用割合が伸び続けていることがわかる。それに対して1年生の使用割合の伸びには、大きな変化が認められなかった。

3. アンケートの結果

国際高校生の1、2年生を対象に計148人にアンケートを実施した。その結果を次のようにまとめる。

質問1・一方のハンドソープがRSPO認証を受けていることを知っているか
はい101人(68.2%) いいえ47人(31.8%)

質問2・どちらのハンドソープを使用したか
RSPO85人(57.4%) RSPOでない39人(26.4%) どちらでもない24人(16.2%)

質問3・国際高校ではどちらのハンドソープを使用したいか

RSPO 89人(60.1%) RSPOでない 11人(7.4%) どちらでもない 48人(32.4%)

質問1の「一方のハンドソープがRSPO認証を受けていることを知っているか」という問いには、68.2%の人がはい、31.8%の人がいいえと答えた。質問2の「どちらのハンドソープを使用したか」という問いには、57.4%がRSPO認証のハンドソープを使用した、26.4%がRSPO認証のないハンドソープを使用した、16.2%がどちらでもない、と答えた。「国際高校ではどちらのハンドソープを使用したいか」の問いには、60.1%がRSPO認証の受けたハンドソープを使用したい、7.4%がRSPO認証を受けていないハンドソープを使用したい、32.4%がどちらでも良い、答えた。

質問1の結果から、アンケートに答えた人の約半数以上の人RSPO認証を知っていてハンドソープを使用していたことがわかる。過去の学びが行動を起こしていたので、一貫性の法則を改めて再確認することができた。

質問3の結果から奈良県立国際高等学校ではRSPO認証のハンドソープを使用したいと答えた人が60.1%いたことから、約半数以上の人RSPO認証のハンドソープをこれからも使用したいことがわかった。このことから、ボルネオ島の環境問題を学び、解決に向けての行動が取れていると考えた。だが、このアンケート結果から新たな課題が生まれた。それは、質問3でどちらでもないと答えた32.4%の人の意識をRSPO認証ハンドソープがいいと思ってもらえるように変えることだ。

4. 考察

私たちの高校では、グローバル探究という授業がある。この授業の目的は、世界にある様々な環境問題や社会問題について学びを深め、解決に向けた行動を起こすといった「探究力」「行動力」を養うことである。図2はこの授業におけるカリキュラムを模式的に示したものである。1年生の時は、共通でボルネオ島の環境問題について学んだ。それ以降からは個人が興味を持つ環境問題や社会問題について探究を深めている。

今回行った研究の時期では1年生は1ヶ月前までボルネオの環境問題やRSPO認証について勉強していた。一方で、2年生がボルネオ島の環境問題を勉強し始めてから一年以上経っている。本来ならば2年生はRSPOハンドソープの使用割合が低くもおかしくないはずだが、なぜか高い。

我々は、この現象を次のように解釈した。2年生は、ボルネオの環境問題やRSPO認証を忘れていている人が多いと考えた。しかし、2年生は様々な社会問題に対する探究をしたことによって社会問題全体の意識が高まり、環境に配慮したRSPOハンドソープを使用したと考えた。一方、1年生は社会問題に対する探究の経験が浅いので行動にむすびつかなかったと考えた。

私たちは今回の研究を通して、主に2つのことを発見した。1つ目は、国際高校生はRSPO認証のハンドソープを積極的に使っていた事から、過去の学びを活かしてボルネオの環境問題を解決するような行動をとっているということである。2つ目は、一貫性の法則を使ったはたらきかけにより、国際高校生はボルネオの環境問題を積極的に解決するような行動をとったということである。

私たちが今回行った一貫性の法則の社会心理学的アプローチは環境問題を解決する手段の1つになるのではないだろうか。



図2 グローバル探究のカリキュラム模式図

5.結論

国際高校生はRSPO認証のハンドソープを積極的に使っていた事から、ボルネオの環境問題を解決をするような行動をとっていることがわかった。つまり私たちは学びを活かすことができていた。さらに、一貫性の法則を使った働きかけにより、国際高校生はボルネオの環境問題を積極的に解決するような行動をとった。

6. 終わりに

私はこの探究を通して、ボルネオ島の環境問題についてより多くの知識を身につけることができた。私が参加した認定NPO法人ボルネオトラストジャパンが開催している中高生ボルネオZoom勉強会に参加し、現地に在住する方々から講義を受け、問題を詳しく学ぶことができた。この勉強会に参加して得たことは、プランテーションにより発生している問題を自分ごととして捉えることができたことだ。自分ごととして捉えることで、この問題の解決に向け、私の周りの人の環境問題に対する意識を変えることができた。

これからできることとして、私たちの活動をより多くの人に伝え、次の世代に引き継いでいくことだ。環境問題などの社会問題は、私たちだけで解決するのは難しい。しかし、このハンドソープ活動のような小さなことから知り、行動を広めていけば、ボルネオの環境問題だけでなく、世界で発生している問題に視野を広げていくことができるはずだ。

7.謝辞

本論文の作成に当たり、多くの方々にご指導ご鞭撻を賜りました。サラヤ株式会社代島 裕代様、NPO法人ラストジャパン岸 裕子様、奈良県立国際高等学校の松本 真紀様、水本 祐之様にご協力、ご指導頂きました。ここに感謝の意を表します。